



2022 年度年次総会 議事次第

一般社団法人 国際 P 2 M 学会

日 時：2022 年 4 月 23 日 土曜日 13:00～13:30

開催形式： 対面及びオンラインによるハイブリッド形式

議事

第 1 号議案	議長と総会開催要件の確認
第 2 号議案	学会会員数の報告
第 3 号議案	2021 年度学会活動報告
第 4 号議案	2021 年度事業収支報告
第 5 号議案	2022 年度基本方針と活動計画
第 6 号議案	2022 年度事業収支計画
第 7 号議案	人事
報告事項	学会表彰

以上

2021 年度年次総会 第 1 号議案
---------------------

**【議長と総会開催要件の確認】**

## 1 開催と議長

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4 章）について、年に 1 回 4 月か 5 月に開催する他、必要がある場合に開催する（13 条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16 条）との規定がある。これにより社員総会を開催する。

## 2 総会成立要件

成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の 10 分の 1 以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う」（18 条）と規定されている。以下成立要件を確認する。

正会員数	158 名
出席者数（委任状による者も含む）	〇〇名

以上の数を確認の結果、総会の成立を認めることにする。

## 3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（12 条）とある。関連議案があるので、ご参照をお願いします。

- （1）社員及び会員の除名
- （2）理事及び監事の選任又は解任
- （3）理事及び監事の報酬等の額
- （4）貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- （5）定款の変更
- （6）解散及び残余財産の処分
- （7）その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

以上

2022 年度年次総会 第 2 号議案

【学会会員数の報告】

定款第 5 条会員の規定による分類に従い、2022 年 3 月末の学会会員数を報告する。

① 正会員	158	名	
② 法人会員（注）	4	社	
③ 学生会員	18	名	
④ 名誉会員	4	名	学会に貢献した外国人研究者（設立総会にて承認）ならびに学会名誉会長、名誉会員

（注）法人会員として年間 1 口 5 万円を会費として支払い、5 名の会員権利を取得する制度である。

以上

## 2022 年度年次総会 第 3 号議案

## 【2021 年度学会活動報告】

## 1. 定期研究発表大会

## (1) 第 31 回春季研究発表大会

「超 VUCA 時代の社会変革とプログラムマネジメント」のテーマで、慶應義塾大学日吉キャンパスに本部を置き、以下の形式で開催した。

- ・ 日時 : 2021 年 4 月 18 日 (日)
- ・ 開催方法 : 午前 (研究発表) : オンデマンド配信  
午後 (基調講演とパネル討論) : ライブ配信
- ・ 大会実行委員長 : 当麻哲哉 (慶應義塾大学大学院  
システムデザイン・マネジメント研究科教授)
- ・ 大会実行副委員長 : 白坂成功 (慶應義塾大学大学院  
システムデザイン・マネジメント研究科教授)
- ・ 大会企画委員長 : 久保裕史 (公益社団法人 JAPAN of ASIA 代表理事)  
大会企画副委員長 : 沖浦文彦 (東京都市大学 都市生活学部教授)、  
小笠原秀人 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)
- ・ 予稿集編集委員長 : 佐藤達男 (広島修道大学 経済科学部教授)
- ・ 大会参加者数 : 54 名
- ・ 研究発表 : 21 件 (企画・R&D、人材育成、社会の 3 分野)
- ・ 基調講演  
講演 1 「デジタル時代のアジャイル・ガバナンスのすすめ」  
講師 : 須賀千鶴 (世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター長)  
講演 2 「DX のドライバーは何なのか」  
講師 : 福田譲 (富士通株式会社執行役員常務 CIO 兼 CDXO 補佐)
- ・ パネル討論  
モデレータ : 当麻哲哉 (慶應義塾大学大学院  
システムデザイン・マネジメント研究科教授)  
パネリスト :  
沼尻祐未 (経済産業省商務情報政策局情報経済課  
アーキテクチャ戦略企画室室長補佐)  
深堀 昂 (アバターイン株式会社代表取締役 CEO)  
佐藤達男 (広島修道大学経済科学部教授)  
白坂成功 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

## (2) 第 3 2 回秋季研究発表大会

「オープンでアジャイルなイノベーションマネジメントと P2M」のテーマで、北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 金沢駅前オフィスに本部を置き、以下の形式で開催した。

- ・日時 : 2021 年 10 月 24 日 (日)
- ・開催方法 : 午前 (研究発表) : オンデマンド配信  
午後 (基調講演とパネル討論) : ライブ配信
- ・大会実行委員長 : 内平直志 (JAIST 副学長、教授、東京サテライト長)
- ・大会副実行委員長 : 三宅由美子 (第一工業大学教授)
- ・大会企画委員長 : 沖浦文彦 (東京都市大学 都市生活学部教授)、
- ・大会企画副委員長 : 小笠原秀人 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)
- ・予稿集編集委員長 : 加藤智之 (NTT データエンジニアリングシステムズ オートモーティブソリューション事業部 先端ソリューション推進部、名古屋工業大学大学院 ながれ領域 社会工学専攻マネジメント分野 研究員)
- ・大会参加者数 : 53 名
- ・研究発表 : 20 件 (4 分野)
- ・基調講演 「総合化学メーカーにおけるグローバルオープンイノベーション  
～具体例をもとにプロジェクトマネジメントでの課題を語る～」  
講師 : 岡本 敏 (住友化学株式会社)
- ・パネル討論  
モデレータ : 内平直志 (JAIST 副学長、教授、東京サテライト長)  
パネリスト :  
岡本 敏 (住友化学株式会社)  
相澤宏行 (株式会社東芝)  
小島秀藏 (日揮ホールディングス株式会社)  
大島將義 (株式会社リクルート)  
齋藤輝明 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)  
久保裕史 (国際 P2M 学会副会長)

## 2. 機関誌の発行

研究発表大会規程および機関誌規程にもとづき、以下の機関誌を発行し学術登録機関の科学技術振興機構 (JST) の電子ジャーナル登録・公開システム J-STAGE に登録した。

## (1) 研究発表大会予稿集

第 3 1 回春季研究発表大会の予稿集は佐藤達男予稿集編集委員長が中心となって発行、第 3 2 回秋季研究発表大会の予稿集は加藤智之予稿集編集委員長が中心となって発行し、それぞれの大会運営を円滑に行うことができた。

## (2) 国際 P2M 学会誌

武富学会誌編集委員長が中心となり、2021年10月29日に Vol.16, No.1 を、2022年3月26日に Vol.16, No.2 を発刊した。

## (3) P2M マガジン

亀山P2Mマガジン編集長が中心となり、2021年6月30日に第12号（特集「科学技術とイノベーションを確実に実行するプログラムマネジメント」）、2021年10月20日に第13号（特集「新しい地域社会創成のためのP2M適用事例」）、2022年1月15日に第14号（特集「オープンでアジャイルなイノベーションマネジメントとP2M」）を発刊した。

## 3. 学会活性化事業

## (1) セミナー企画委員会の立上げ

6月18日の理事会・評議員合同会議でセミナー企画委員会の設置が提案され、久保裕史セミナー企画委員長を中心に、2021年度のセミナーの企画・実行と、2022年度以降の活動について検討を開始した。他の委員（3月26日現在）は、以下の通りである。

玉木欽也（副委員長）、亀山秀雄、平松庸一、大和田順子、岡田久典、清田守

## (2) P2M オンラインセミナーの実施

IAP2M CHANNEL（国際 P2M 学会の YouTube チャンネル）に、2021年8月31日から「プログラムマネジメントの概要－企業経営とプロジェクトの事例から－」と「P2M に関する FAQ」の2件を配信し、2022年1月15日から「セミナー動画解説・座談会 第一部解説と質疑（基礎知識、FAQ、企業経営）」、「セミナー動画解説・座談会 第一部解説と質疑（事例理解、論文の書き方）」および「セミナー動画解説・座談会 第二部座談会」の3件の配信を開始した。

## (3) ライブラリ等の整備

本学会のメリット訴求と会員の利便性向上を図るため、学会ホームページにセミナー企画委員会が、以下の①と②を掲載した。

①「査読論文投稿から学会誌掲載までの流れ」を分かりやすくフローチャート化して、「学会論文関連情報」ページに掲載した。

②「優秀論文」（2006～2016年の国際 P2M 学会誌掲載論文 13本）リストと、「h5-index」（Google Scholar Metrics 掲載の最近5年間の論文）リスト、それぞれリンク付きで作成した。これらは、本学会ホームページに「ライブラリ」を新設し、「セミナー動画（IAP2M CHANNEL）」とともに掲載した。

#### (4) 表彰委員会の設置

3 回理事・評議員合同会議で表彰委員会の設置が承認され委員長に亀山理事、副委員長に久保理事が選任された。第 4 回理事・評議員合同会議で 5 名の委員の構成が承認された。委員長：亀山副会長、副委員長：久保副会長、委員：和田事務局長、武富編集委員長、沖浦大会企画委員長。

本委員会の活動は、学会における研究ならびに運営活動の功労に対する学会からの公式な謝意を表すると共に、学会活動を活性化するインセンティブを与えることに繋がる。

3 月 20 日開催された第一回表彰委員会にて、第 4 回理事・評議員合同会議で議論された、故堀口正明氏に対しての学会設立時の功績と設立からの監査役としての貢献に対して学会功労賞（設立功労賞）を授与することを正式に決定した。合わせて、表彰選考内規の一部改訂を検討した結果を第 5 回理事・評議員合同会議に提案した。

#### 4. 学会 HP のリニューアル

白井久美子（学会 HP リニューアルワーキンググループ座長）の指揮の下に国際 P2M 学会ウェブサイトのリニューアルし、2021 年 6 月 4 日からスマートフォンからもアクセスできるようにした。

#### 5. 学会規程の整備

前年度から懸案事項であった「学会誌編集委員会規程」（2021 年 4 月 18 日の第 1 回理事会・評議員会合同会議で承認）「著作権規程」「著作権規程内規」（同年 6 月 12 日の第 2 回理事会・評議員会合同会議で承認）を制定し、2021 年秋季大会以降、学会機関誌（大会予稿、学会論文誌、P2M マガジン）に投稿される論文と寄稿文に適用することとした。

学会に顕著な貢献のあった個人を処遇することを目的に、名誉会員規程を制定した。（2022 年 3 月 26 日の第 5 回理事・評議員合同会議で承認）

#### 6. 学会誌の DOAJ (Directory of Open Access Journal) への収載に向けた準備

##### (1) JST によるジャーナルコンサルティングの受講

学会誌の編集委員が、本年 5 月から「ジャーナルコンサルティング（JST が無償提供）」を受講した。その結果、DOAJ に収載してもらうためには「ジャーナル発刊趣旨の明記」「著作権の取り扱い（CC ライセンスの明示）」「査読プロセスの説明補強」等の改善が必要であるとの指摘を受けた。

注）DOAJ (Directory of Open Access Journal) は、いわゆる「ハゲタカジャーナル」でないことを示す英国の認証で、主に出版の基盤（組織・規定・流れ・財務等）の適正さを外部へ示すものである。学術成果のオープン利用と著作権の適正運用への意識が高まりつつあり、研究者の採用・昇格や政府の研究資金の「研究成果」に DOAJ のような認証が求められつつある。

(2) 学会誌掲載論文のエンバーゴ制度の廃止

DOAJ へ掲載する条件として掲載論文のオープン利用が必要なため、現在会員特典の一つとして国際 P2M 学会誌の論文を掲載後「半年間は会員のみ閲覧可能」とするエンバーゴ制度を廃止することとした。

7. 他学会などとの協力

(1) 協賛大会

第 31 回春季研究発表大会から、研究発表大会の集客と投稿数の増加を目的として以下の団体との協賛大会とすることとした。

一般財団法人 エンジニアリング協会、公益社団法人 化学工学会、一般社団法人 情報サービス産業協会、一般財団法人 日本科学技術連盟、日本 SPI コンソーシアム、一般社団法人 日本生産管理学会、特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会、一般社団法人 PMI 日本支部、一般社団法人 プロジェクトマネジメント学会

(2) 国立国会図書館のインターネット資料収集事業への協力

2021 年 8 月 13 日に国立国会図書館より、同館のインターネット資料収集保存事業において、当学会の資料（HP の掲載記事や J-STAGE に掲載の学会誌、P2M マガジンなど）を収集保存し、利用者に提供する事業への協力依頼があり、協力することとした。



## 2022 年度年次総会 第 4 号議案

## 【2021 年度事業収支報告】

(2021 年度の計画と実績)

## 1. 2021 年度の事業収支報告について

当学会会計責任者が作成した「国際 P2M 学会 2021 年度決算書」(1)損益計算書 (2)貸借対照表を本議案に「別紙添付」している。本決算書は、学会監事の監査により、承認をいただいている。以下に年度計画と実績の差異を説明するので、ご審議の上、ご承認をお願いする。

2021 年度も前年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施した。

主に、論文投稿数の維持、学会誌発行の効率化などにより改善を図ることが出来た。結果、「繰越金」については 昨年度に引き続き増加傾向で確保できた。

## 2. 会員の状況

## 2. 1 会員数の推移説明

表 1 は、事業収入のベースとなる会員数の推移報告である。会員数の増加は多くを望めない厳しい状況にあるが増強に努める。

表 1 会員数の推移

会員	2019 年度末実績	2020 年度末実績 A	2021 年度末実績 B	差異 B-A
正会員	152	153	158	5
学生会員	17	19	18	-1
法人会員	25(5 社)	25(5 社)	20(4 社)	-5
計	194	197	196	-1

## 2. 2 会員数に関するコメント

## ①正会員数

退会者よりも入会者が上回り、前年よりも増加した。会員による積極的な勧誘やセミナー企画等の施策が奏功したものと思われる。引き続き、会員の増強に努めていく。

## ②学生会員数

昨年対比で微減となった。引き続き学生会員においても増強に努めていく。

## ③法人会員数

1 社が退会したため、4 社となった。

厳しい状況であるが財務基盤安定のために、引き続き勧誘努力を続ける。

## 3. 事業収入

表 2 は、事業収入の計画と実績の差異の報告である。2021 年度の事業収入は、オンライン開催による大会参加費の減少などにより計画に対して僅かに減収となった。

表 2 2021 年度事業収入計画と実績 (単位:円)

事業収入項目	2021 年度計画	2021 年度実績	差異
	A	B	B-A
1. 年会費・入会金	1,800,000	1,794,000	-6,000
2. 春季大会開催事業	300,000	340,000	40,000
3. 秋季大会開催事業	300,000	353,000	53,000
4. 学会誌発行事業 a	900,000	600,000	-300,000
5. 前払金・利息・他 b	0	131,997	131,997
6. 前年度繰越金	6,419,984	6,419,984	0
収入合計	9,719,984	9,638,981	-81,003

a : Vol. 15-No2, Vol. 16-No1 論文掲載料

b : 次年度前払金 (年会費・大会参加費) と受取利息・他。

## 4. 事業支出

表 3 は、2021 年度の事業支出の計画と実績の差異の報告である。2021 年度は、コロナ禍の影響を受けて、組織運営費削減、オンライン開催による大会運営費低減などにより計画値に対して 300 万強の支出減になった。

表 3 2021 年度事業支出計画と実績 (単位 円)

支出の部	2021 年度計画	2021 年度実績	差異
	A	B	C= B-A
1. 学会組織運営費 a	500,000	483,714	-16,286
2. 業務委託費 b	600,000	482,560	-117,440
3. 春季大会開催費	250,000	86,480	-163,520
4. 秋季大会開催費	250,000	91,367	-158,633
5. 学会誌・マガジン c	1,000,000	951,330	-48,670
6. セミナー開催費	200,000	20,000	-180,000
7. 表彰制度関係費 .	200,000	2106	-197,894
8. 研究・研修関係費	1,000,000	0	-1,000,000
9. 会員サービス活動 d	500,000	129,000	-371,000
10. 法人都民税他	100,000	70,000	-30,000

11. 予備・引当	1,000,000	0	-1,000,000
支出合計	5,600,000	2,316,557	-3,283,443

- a. 組織運営費とは、理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費、IT 環境整備費などの費目の総計である。
- b. 業務委託費とは、国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間 2 回の会費請求、役員改選などの連絡業務である。
- c. 学会誌・予稿集の編集費、査読費用、マガジン編集費等が含まれている。
- d. 学会ホームページの改善費（新規構築）ならびに現状ホームページの運用費を含む。

## 5. 総合収支報告

表 4 は 2021 年度の総合収支の結果である。お陰さまで、皆様のご支援により、「繰越金」は当初の年度計画より増額となり、引き続き維持できた。これは、主に計画より支出が大幅に減少したことによるものである。

表4 総合収支の部 (単位 円)

	2021 年度計画	2021 年度実績	差異
	A	B	B-A
1. 収入の部	9,719,984	9,638,981	-81,003
2. 支出の部	5,600,000	2,316,557	-3,283,443
3. 総合収支 a	4,119,984	7,322,424	3,202,440
4. 次期繰越金 b	4,119,984	7,240,424	3,120,440

- a. 実績の総合収支 B には次年度収入(前受金)が含まれている。
- b. 「前受金(流動負債)」は、翌年度会計で「収入」に反映する。

会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いします。

以上

## 国際 P 2 M 学会 2 0 2 1 年度決算報告書

(但し、2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日まで)

## (1) 損益計算書

(単位：円)

収 入		支 出	
前期繰越	6,419,984	事務運営費	483,714
年会費・入会金	1,794,000	業務委託費(国際文献社)	482,560
春季大会	340,000	春季大会	86,480
秋季大会	353,000	秋季大会	91,367
論文掲載料	600,000	論文・マガジン発行費用	951,330
資格試験 受験料・更新料	0	資格認定証発行費用	0
		研修・研究関連	
		会員サービス関連	129,000
ビギナーセミナー	0	ビギナーセミナー	20,000
		法人都民税	70,000
前払い 年会費・入会金	72,000	資格制度関連	
前払い 次年度 春季大会参加費	10,000	表彰・感謝状関連	2,106
		小 計	2,316,557
利息、他	49,997	総合収支	7,322,424
合 計	9,638,981	合 計	9,638,981

## (2) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	7,322,424	年会費前受金	72,000
普通預金(SMBC 飯田橋支店)	1,288,038	春季大会 参加費前受金	10,000
郵便振替預金(文京関口一局)	6,034,386	春季大会 懇親会費前受金	0
現金	0	学会誌 15 巻 2 号論文掲載料 前受金	0
		流動負債合計	82,000
		1. 固定負債	
流動資産合計	7,322,424	固定負債合計	0
		負債合計	82,000
1. 固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	前期繰越正味財産	6,419,984
		当期正味財産増加額(減少額)	820,440
		正味財産合計(正味負債)	7,240,424
資産合計	7,322,424	負債及び正味財産合計	7,322,424

### 監査報告書

国際 P2M 学会の 2021 年度(2021 年 4 月 1 日より 2022 年 3 月 31 日まで)の決算報告書を詳細監査しました結果、すべて適正に処理されており、正確であることを確認しましたので、本書を持って報告致します。

2022 年 4 月 4 日

監事 白井 久美子



**2022 年度年次総会 第 5 号議案****【2022 年度の基本方針と活動計画】**

(事業期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

**1. 基本方針**

社会・行政・産業が直面する課題を解決するプログラムとプロジェクトを対象としたマネジメントの知識を、理論と実践の両面から体系化することをめざす。COVID-19 感染拡大の長期化と世界の分断化への対応、そして、本学会の会員数減少の危機に対応するため、2022 年度は、P2M が提供する価値を再確認し、プログラムマネジメント人材育成の事業を重点的に推進する。

**2. 活動計画****2. 1 運営委員会（ステアリングコミッティ）の設置**

本学会の基本方針に基づき、研究発表大会の企画、論文誌の編集、P2M マガジンの企画、セミナー企画の 4 つの活動を効果的に連携させるため、運営委員会（ステアリングコミッティ）を設置する。さらに、他の組織と比較した独自性や共通性を確認し、P2M Version2 の記述で用いている「価値」、「ベネフィット」、「アウトカム」等の用語の定義を明確にするため、運営委員会のワーキングプロジェクトとして用語検討 WG を立ち上げる。

**2. 2 研究発表大会の企画と実行****(1) 第 33 回春季研究発表大会**

- ・ 日時 : 2022 年 4 月 23 日(土)
- ・ 開催校 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス
- ・ 開催方法 :  
ハイブリッド形式（対面での参加を基本とするも、オンラインでの参加も可能）
- ・ テーマ : これからのプログラムマネジメント教育
- ・ 大会実行委員長 : 小笠原秀人（千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科 教授）  
大会実行副委員長 : 西田絢子（千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 准教授）
- ・ 大会企画委員会委員長 : 沖浦文彦（東京都市大学 都市生活学部教授）  
大会企画委員会副委員長 : 小笠原秀人（千葉工業大学 社会システム科学部教授）
- ・ 予稿集編集委員長 : 加藤智之（NTT データエンジニアリングシステムズ オートモーティブソリューション事業部 先端ソリューション推進部、名古屋工業大学大学院 ながれ領域 社会工学専攻マネジメント分野 研究員）

## (2) 第 32 回秋季研究発表大会企画案

- ・ 日時 : 2022 年 10 月 15 日 (土)
- ・ 開催校 : 早稲田大学
- ・ テーマ : TBA
- ・ 大会実行委員長 : 永井祐二 (早稲田大学 環境総合研究センター研究院教授/上級研究員)
- ・ 大会実行副委員長 : 大和田順子 (同志社大学政策学部教授 (早稲田大学招聘研究員))
- ・ 大会企画委員会委員長 : 沖浦文彦 (東京都市大学 都市生活学部教授)  
大会企画委員会副委員長 : 小笠原秀人 (千葉工業大学社会システム科学部教授)
- ・ 予稿集編集委員長 : 佐藤達男 (広島修道大学経済科学部教授)

## 2. 3 国際 P2M 学会誌の編集と発行

春季研究発表大会および秋季研究発表大会の投稿論文の中から学術的に優れた論文を選定して査読を行い、2022 年 9 月に 17 巻 1 号、2023 年 3 月に 17 巻 2 号を発行する。

編集委員会 : 武富為嗣 (委員長)、TBA (17 巻 1 号の編集責任者)、TBA (17 巻 2 号の編集責任者)、論文査読委員

## 2. 4 P2M マガジンの企画と発行

本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、毎回特集を組むこととし、年 3 回の発行を目指す。

15 号特集 「変革の時代における新規事業に求められるこれからのマネジメント」(5 月 10 日発行予定)

16 号特集 (9 月 10 日発行予定)

17 号特集 (1 月 10 日発行予定)

18 号特集 (5 月 10 日発行予定)

特集候補テーマ

①新しい資本主義時代に求められているマネジメントの役割

②海外事業マネジメントにおける P2M の役割

③10 年先の事業を考える時代の創造的統合マネジメントの新たな展開

- ・ 学会誌 (P2M マガジン) 編集委員会 : 亀山秀雄 (委員長)、佐藤達男 (副委員長)

## 2. 5 セミナーの企画と実行

ライブラリの内容の充実を図るとともに、産官学連携研究会と連動するセミナー企画 (公

開シンポジウム、成果報告、出版、リカレント教育、eラーニング等)の可能性を検討する。

- ・セミナー企画委員会：久保裕史（委員長）、玉木欽也（副委員長）

## 2. 6 学会誌の DOAJ(Directory of Open Access Journal)への掲載にむけた準備

査読論文誌の英国の認証 DOAJ への掲載に向け、著作権の取り扱い（C.C.ライセンスの明示）などの規程の見直しと、学会員への教宣活動を行う。

- ・学会誌品質改善チーム（仮称）：田隈広紀（責任者）

## 2. 7 表彰委員会による優秀論文賞と学会研究奨励賞の検討

学会誌創刊号から 1 巻から 10 巻までに掲載された論文から選ばれた 13 編の優秀論文をホームページに掲載している。今回は、11 巻から 16 巻までに掲載された論文から優秀論文を選定し優秀論文賞を選定し、ホームページに掲載する。若手研究者の育成向けに「学会研究奨励賞」を設定し、年間 2 回発行される論文誌の中から論文査読委員会の投票で数報選んでホームページに「学会研究奨励賞」を設けて掲載する。選定方法、若手の定義、受賞論文数などについて表彰委員会の議を経て提案する。

- ・表彰委員会：亀山秀雄（委員長）、久保裕史（副委員長）、武富為嗣（編集委員長）、和田義明（事務局長）、沖浦文彦（大会企画委員長）

## 3. 学会業務の平準化

2021 年度にほぼ整備が完了した学会規程にもとづき、各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮する。

以上



## 2022 年度年次総会 第 6 号議案

## 【2022 年度事業収支計画】

2022 年度の事業期間は、2022 年 4 月 4 日から～2023 年 3 月 日となる。

下記を提案するので、よろしくご審議とご承認をお願いします。

## 1. 会員予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の努力目標を下記に設定する。よろしく会員のご協力とご尽力をお願いします。

表 1 2022 年度会員目標

会員の構成	2022 年 3 月末実績	2023 年 3 月末会員目標
正会員	158 名	180 名
学生会員	18 名	25 名
法人会員	20 名(4 社)	25 名(5 社)
合計	196 名	230 名

## 2. 2022 年度事業収支計画

会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測などを前提に事業収入を計画し前期繰越金を参入する。

表 2 がその内容である。

表 2 2022 年度の事業収入計画 (単位 円)

事業収入項目	収入計画
1. 年会費	1,800,000
2. 春季大会開催事業(注 1)	450,000
3. 秋季大会開催事業(注 1)	450,000
4. 学会誌発行事業(注 2)	900,000
5. 前年度繰越金	7,240,424
収入の部 合計(A)	10,840,424

注 1 : 大会参加者数を春季 50 人、秋季 50 人として試算した。

注 2 : 学会誌掲載論文数を春・秋大会は合わせて 30 編として計上した。

表 3 は、本年度の支出計画である。今年度活動計画の注力事業の予算を反映している。単年度黒字を確保するために厳しい予算計画となっている。

表 3 2022 年度支出計画 (単位 円)

事業支出項目	予算計画
1. 学会組織運営費 注1	500,000
2. 業務委託経費 注2	600,000
3. 春季大会開催費 注3	250,000
4. 秋季大会開催費 注3	250,000
5. 学会誌・マガジン発行費用 注4	1,200,000
6. セミナー開催費 注5	200,000
7. 表彰・感謝状制度関係費 注6	200,000
8. 研究・研修・普及資料作成費注7	1,000,000
9. 会員サービス活動費注8	500,000
9. 一般社団 税 注9	100,000
10. 予備・引当 注10	1,000,000
支出の部 合計(B)	5,800,000

注 1. 理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費などの費目の総計である。大学拠点に関するマーケティング活動費も含めた。

注 2. 国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間 2 回の会費請求、役員改選、などの連絡業務である。

注 3. 大会開催関連費である。予稿集編集、講演・パネル謝礼、準備調整費などである。

注 4. 年 2 回発行する論文査読、編集、電子ジャーナル (J-STAGE 登録)、マガジン発行諸費用、関連する会議費などの費用である。

注 5. ビギナーズ・セミナーなどの実施に要する教材、講師謝礼など最小費用を計上した。

注 6. 表彰状・感謝状の作成や記念品・副賞などの費用である。

注 7. 特別研究活動費並びに研修及び普及に向けた資料作成費用、ならびに関連図書を購入などを見込む

注 8. ホームページを更に閲覧・活用しやすいものにリニューアルし、会員の利便性向上を図る。

注 9. 一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税を指す。

注 10. 組織運営費、大会参加者数の変動等への引当準備をする。また国際会議参画準備の予備費を手当しておく。

事業収支計画は、年会費・大会参加費収入や、コスト変動などの前提はあるが、単年度収支で黒字維持に注力する。

表4 2022年度事業収支計画 (単位 円)

項目	金額
収入計画 (表2 A)	10,840,424
支出計画 (表3 B)	5,800,000
総合収支 (A-B)	5,040,424

以上のご承認をお願いします。

以上

2022 年度年次総会 第 7 号議案

【2022 年度人事】

下記の人事については、2022 年 1 月 30 日ならびに 2011 年 3 月 26 日開催の理事会に於いて了承されたので本総会で審議事項の承認をお願いすると共に、報告事項について報告する。

1. 2022 年度よりの理事、評議員の候補者

任期 2022 年 4 月 23 日～2023 年 4 月総会

(1) 理事・監事（審議事項）

①新任理事の推薦（1 名）（2022 年 4 月 23 日本総会終了時）

候補者 田隈 広紀  
（千葉工業大学 准教授、本学会評議員）

(2) 評議員（報告事項）

①新任評議員の推薦（2 名）（2022 年 4 月 1 日付）

候補者 中山 政行  
（コンサルティングファーム所属、本学会会員）  
玉木 欽也  
（青山学院大学 教授、本学会会員）

②辞任に伴う評議員の退任（1 名）（2022 年 4 月 1 日付）

小原 重信

(3) その他、事務局長の交代（2022 年 4 月 1 日付）（報告事項）

新事務局長就任 田隈 広紀  
事務局長辞任 和田 義明

2. 名誉会員（報告事項）

本学会評議員 小原 重信  
（前本学会会長、本学会設立時理事、本学会評議員）

以上

報告事項

学会設立功労賞の表彰

本学会創設以来、監事及び評議員として運営に尽力されると共に豊かな見識により学会の発展に多大な貢献をされた堀口正明氏が、令和 3 年 11 月 22 日に永眠された。その功績を讃えると共に深く感謝の意を表し、次の表彰を行った。

学会設立功労賞 堀口 正明 氏

以上